

ひまわり画像解説

坂上 * 務

ひまわりは、昭和52年7月14日アメリカ・フロリダから打ち上げられ、昭和53年4月6日から本格運用に入り現在3時間毎に可視と赤外により観測を実施している。可視は日中の雲分布を、赤外画像は昼夜の雲分布を示し気象現象の動向を把握できる。

表紙の写真は昭和54年1月19日正午の可視画像である。第1級の寒気が南下したときの雲を示す。日本の南、或いは東の海上まで広く寒気の移流場であり、長大な前線帯を示唆する雲バンドが寒気移流の最前線に形成されている。

日本海、黄海、東支那海及び日本の南海上には広く寒気の強い吹き出しにより海上で生じた線状配列の対流雲域があり、雲列は北海道東方洋上の北緯44°、東経156°の中心気圧970mbに発達した低気圧の中心に向って彎曲して指向している。又、オホーツク海には海氷が見られ、これこそ本格的冬型のひまわり画像である。

日本列島上では、所謂裏日本では積雪が見られ、特に秋田、山形、新潟は顕著である。又、関東、東海地方は快晴である。一方我が九州は、特に南東部（大分、宮崎、鹿児島）は快晴であるが、福岡県には僅かに雲が見られる。又南西諸島は曇雨天である。以上冬の代表的な天候型を示す。

裏表紙の円形画像はひまわりで見たままの地球で広範囲の気象を知るのに便利である。1月19日は北半球冬、南半球夏であり、日本付近は、寒気の吹き出しにその特徴が見られ、南半球は夏型で赤道から南は特に活発な雲の動きが見られる。

尚、この写真は気象庁の好意によって提供されたものである。

* 九州大学農学部教授・協会常任理事・農博・医博

財団法人 九州環境管理協会会報「環境管理」特集号

昭和56年10月30日 (非売品)

編集委員長 竹下健次郎

発行者 小林博之

発行所 九州環境管理協会

〒813 福岡市東区松香台1丁目218

☎ 代表 (092) 662-0410

印刷所 株式会社 徳房

